

第7回 網走湖汽水環境保全方策検討委員会

議事要旨

日 時：令和8年1月29日13：00～15：00

場 所：網走市民会館大会議室

会議形式：対面形式（WEB併用）による開催

1. 試行的対策における調査結果

- (1) 事務局より資料1を用いて、試行的対策における調査結果を説明した。
- (2) 主な意見は次のとおり。
 - ア. 低塩分化対策に関して、ポンプ導水による試行的対策は成功したといえる。しかし、フェンス内下層の貧酸素傾向が当初想定された以上に発生した。
 - イ. 網走湖では水中の有機物（植物プランクトン）の現存量が多く、成層が形成されると下層部で急速に酸素消費する傾向がある。
 - ウ. 試行的対策は、シジミの産卵を促す装置として機能を果たせると考えられるが、育成場としては硫化物やシルト分の増加などにより適していない。

2. 今後の低塩分化対策検討の方向性

- (1) 事務局より資料1を用いて、今後の低塩分化対策検討の方向性を説明した。
- (2) 主な意見は次のとおり。
 - ア. 低塩分化および塩淡境界層の上昇を制御するという両睨みで、大曲堰を柔軟に運用し最大限に活用していく必要がある。
 - イ. 大曲堰の柔軟運用の実施にあたり、数値計算モデルによる予測が重要である。予測計算や現地観測等を繰り返し、試行錯誤を積み重ねることが重要である。
 - ウ. 大曲堰の柔軟運用については、関係者が一緒に考えていくことが重要であり、他の委員会と発展的に統合することについて、委員全員からの賛同を得た。

3. その他

- ア. 湖水位、潮位の長期のトレンドの整理は今後の検討に活かす必要がある。低塩分化と高塩分化の揺らぎがあることを前提とした検討が必要であることが分かったことが成果である。
- イ. 今後は、渴水、大雨のリスクが増えると考えられ、治水、利水含め流域全体として考えていく必要がある。
- ウ. チャレンジングな課題であり、先端技術を活用し解決していくことが必要である。